

第3 令和5年度下半期の補正予算と決算見込みの概要

令和5年10月1日～令和6年3月31日

I 令和5年度下半期の一般会計予算の補正状況と主な内容

1	12月補正予算	24,516百万円	ほかに債務負担行為	4,643百万円
			繰越明許費	18,609百万円

例年、12月補正予算は、この時期に対応せざるを得ない緊急性のある事業に限定して編成を行っていますが、国の経済対策に基づく補正予算に対応するなど、所要の補正を行いました。

- 電気料金をはじめとする物価高騰対策の期間延長
- 激甚化・頻発化する自然災害に向けた防災・減災、国土強靱化対策
- ツキノワグマによる人身被害防止に向けた緊急対策
- のと里山空港の目標搭乗率達成に向けた緊急対策、小松空港国際線アウトバウンド需要喚起

2	第1次3月補正予算	212,744百万円	ほかに債務負担行為	680百万円
---	-----------	------------	-----------	--------

能登半島地震への対応を最優先に、国の経済対策に呼応した取り組みなど、早急な対応が必要となる事業について、第1次3月補正予算として、令和6年度当初予算と一体的に編成しました。

- 被災者の生活再建（1.5次、2次避難所や応急仮設住宅の設置、支援者の宿泊拠点の整備など）
- 被災事業者の生業再建（なりわい再建支援補助金など）
- 生活を支える道路、水道、電気、通信の復旧
- 創造的復興プランの策定に向けた検討費
- 賃上げにつながる事業者の生産性向上の取組支援

3	第2次3月補正予算	△13,666百万円	ほかに債務負担行為	156百万円
			繰越明許費	198,662百万円

第1次3月補正予算による能登半島地震への対応に加え、被災者の生活再建支援や支援者の活動拠点の確保などについて更なる拡充を行うなど、必要な対応を追加で盛り込みました。

- 生活再建支援の更なる拡充（半壊以上の被災世帯への家財等の取得や住宅再建の支援など）
- 被災地で活動する支援者の宿泊拠点の整備（追加確保）
- 避難者・児童生徒等への支援

このほか、例年、年度末に対応せざるを得ない諸事業について予算措置を講じたほか、執行状況を精査し、投資的経費や一般行政経費について所要の整理を行いました。

- 除雪費
- 不用額の減額（新型コロナウイルス感染症対策費など）

<最終予算の状況>

(単位：百万円、%)

区 分	令 和 5 年 度			令和4年度 最終予算額 (B)	増 減	
	R5.9.29 現在予算額	下半期 補正額	最終予算額 (A)		額 (A)-(B)	率 $\frac{(A)-(B)}{(B)}$
一般会計	621,279	238,046	859,325	661,367	197,958	29.9
特別会計	128,100	10,740	138,840	133,529	5,311	4.0
事業会計	52,261	591	52,852	51,773	1,079	2.1
合 計	801,640	249,377	1,051,017	846,669	204,348	24.1

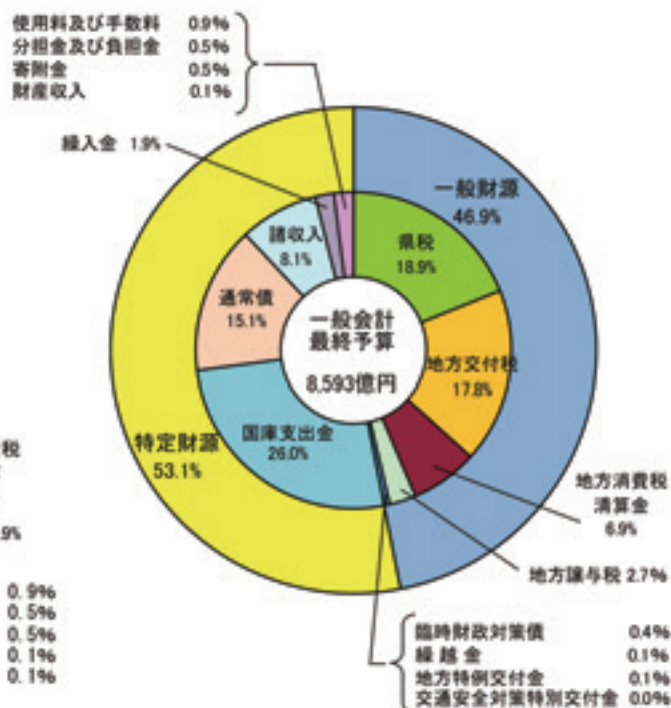
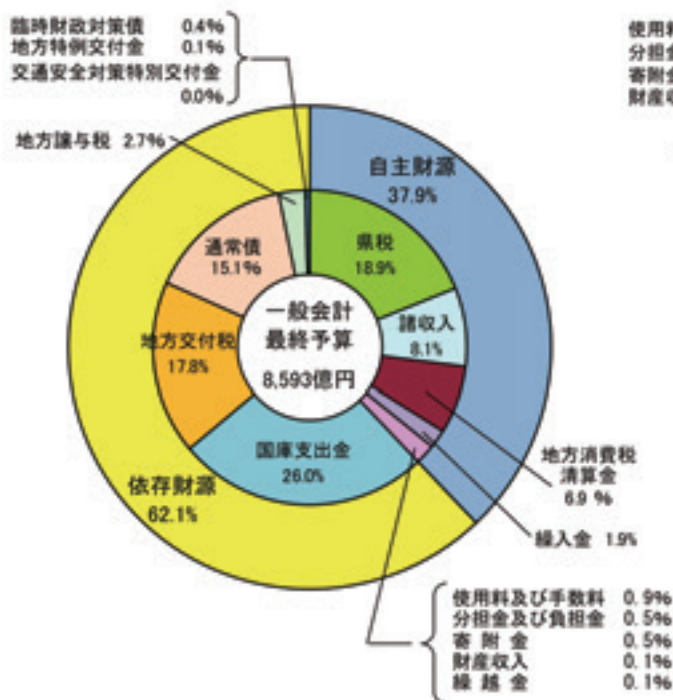
(注1) 予算額の実質的な規模を把握するため、公債管理特別会計を除いているほか、その他の特別会計や事業会計についても借換債充当公債費を除いています。

(注2) 端数整理により、計数が一致しないことがあります。

歳入最終予算（一般会計）の状況

<自主財源・依存財源別内訳>

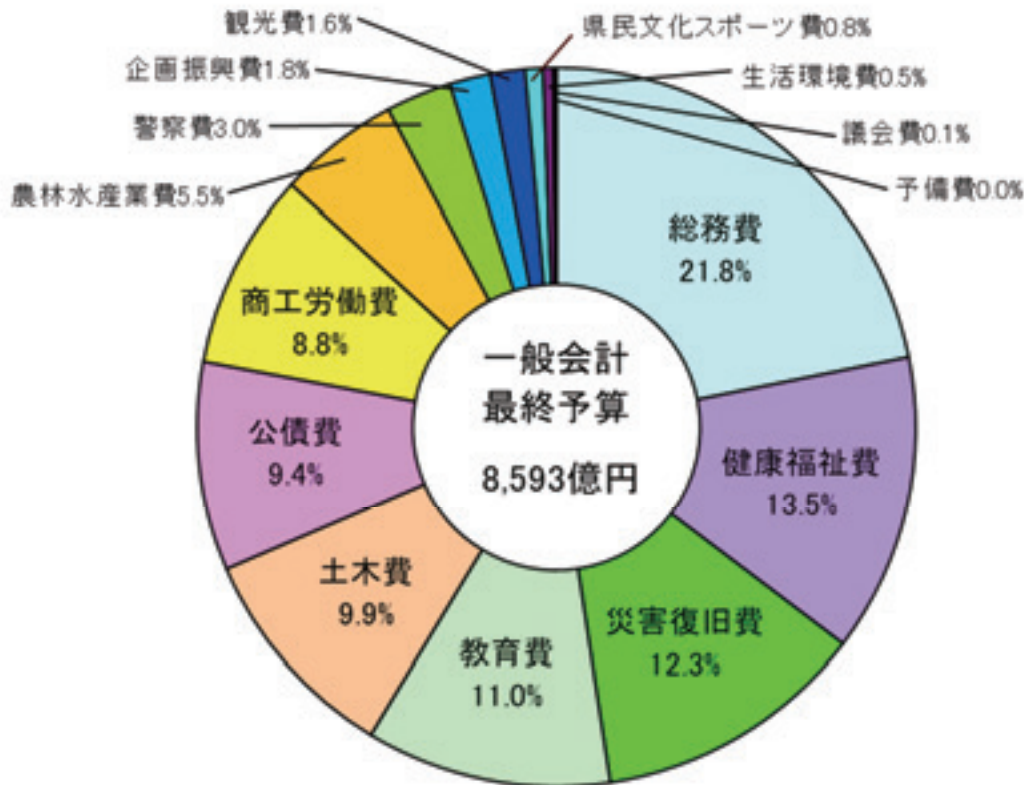
<一般財源・特定財源別内訳>



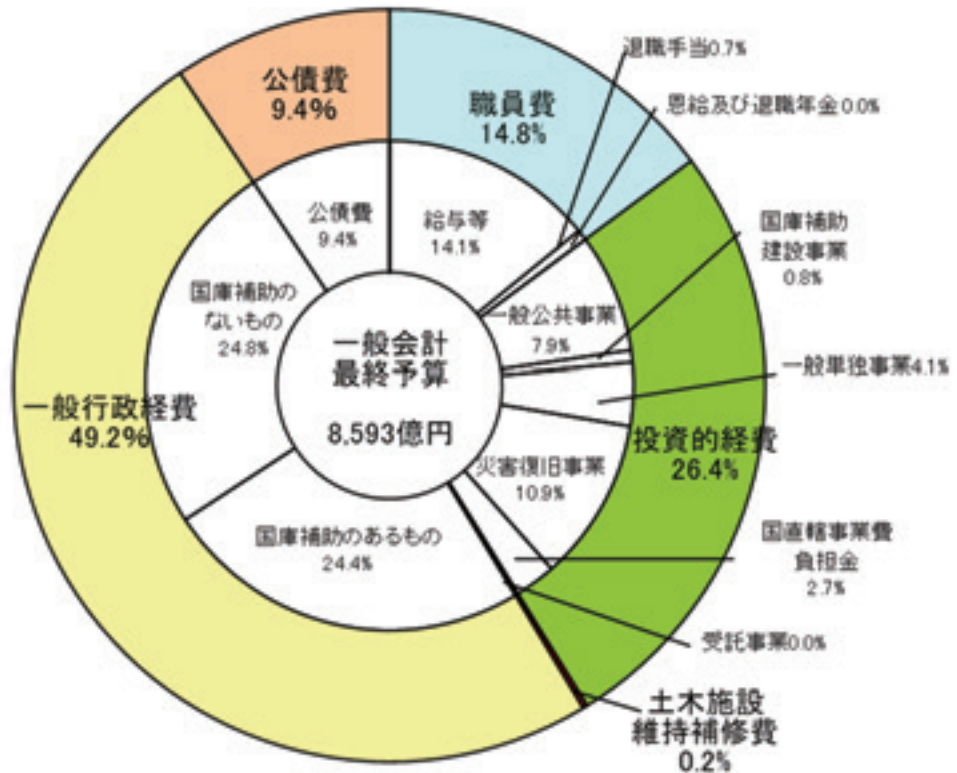
(注) 端数処理のため、内訳が合計に一致しない場合があります。

歳出最終予算（一般会計）の状況

<目的別（款別）内訳>



<性質別内訳>



(注) 端数処理のため、内訳が合計に一致しない場合があります。

Ⅱ 令和5年度予算の繰越

(単位:百万円)

会計区分	繰越明許費	計上時期		繰越額
		12月補正	3月補正	
一 般 会 計	233,660	18,609	215,051	216,953
一 般 公 共 事 業	49,513	17,355	32,158	41,279
国庫補助建設事業	2,083		2,083	1,714
一 般 単 独 事 業	10,042	572	9,470	8,395
災 害 復 旧 事 業	88,352	102	88,250	85,148
国 直 轄 事 業	12,964		12,964	11,064
受 託 事 業	65		65	46
土 木 施 設 維 持 補 修 費	6		6	3
一 般 行 政 経 費	70,635	580	70,055	69,304
特 別 会 計	3,530		3,530	3,473
合 計	237,190	18,609	218,581	220,426
(参考) 令和4年度	85,913	17,650	68,263	73,045

(注1) 表は端数処理のため、内訳が合計に一致しない場合があります。

(注2) 上記のほか、事故繰越しによる繰越額が、令和4年度は610百万円、令和5年度は4,984百万円あります。

(注3) 繰越明許費(3月補正計上)には、令和4年度は令和5年3月31日付け専決の4,480百万円、令和5年度は令和6年3月31日付け専決の16,000百万円を含みます。

繰越事業の主なもの(一般会計)

- 地震により被災した土木施設・農林水産業施設の復旧
- なりわい再建支援補助金
- 被災者生活再建支援金
- 応援職員等の仮設宿泊施設の整備
- いしかわ応援旅行割

- 令和5年度は、一般会計と特別会計を合わせ、2,204億円余(うち地震分1,547億円余)を令和6年度へ繰り越しました。

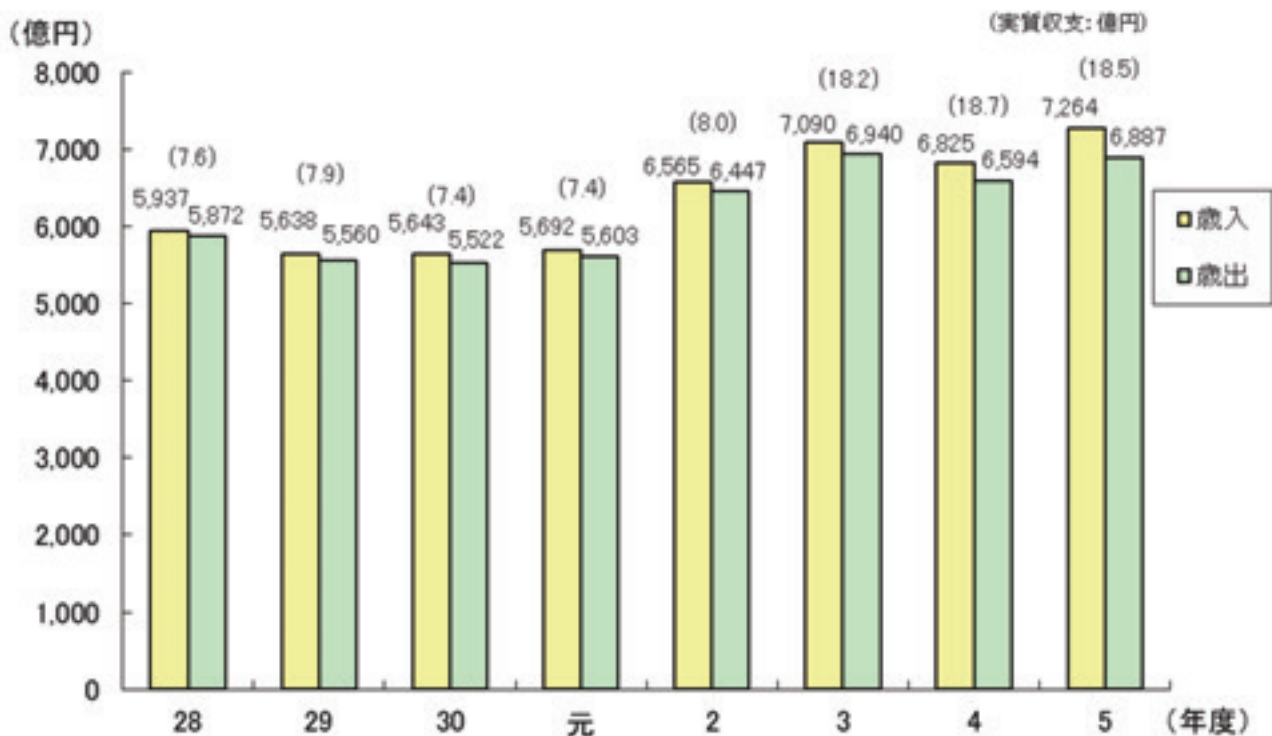
Ⅲ 令和5年度の一般会計決算見込み

△印減(単位:百万円、%)

区 分	令和5年度 決算見込額 (A)	令和4年度 決算額 (B)	増 減	
			額(A)-(B)	率 $\frac{(A)-(B)}{(B)}$
歳 入	726,406	682,499	43,907	6.4
歳 出	688,692	659,368	29,324	4.4
歳入歳出差引収支 (形式収支)	37,714	23,131	14,583	63.0
繰越明許費・事故繰越しの 翌年度へ繰り越すべき財源	35,864	21,267	14,597	68.6
実 質 収 支	1,850	1,865	△ 15	△ 0.8

(注) 表は端数処理のため、内訳が合計に一致しない場合があります。

<決算の推移>



(注) 令和5年度は決算見込み額です。

○ 一般会計の決算見込みは、形式収支で約377億円、実質収支で18億円台の黒字となる見込みです。